

ぼくが見て、感じたカンボジア

僕は日頃から、愛媛県新居浜市にある産業遺産「別子銅山」を日本全国に紹介する活動をしています。

この活動は、僕が所属する新居浜南高等学校のユネスコ部として行っています。

ユネスコ部は新居浜ユネスコ協会青年部も兼ねており、世界平和のために、世界寺子屋運動への募金活動や様々な活動をしています。

僕は、愛媛 SGG クラブ新居浜市、「グローバルパーティ楽しもう会」が主催したパーティーに、別子銅山の紹介をするために参加したとき、あるインドネシアの方と知り合いになったのです。お互いほとんど言葉は通じませんでしたが、かたことの日本語で仲良くなることができました。そのとき、自分は世界の人々と友人になりたいのだと気づきました。

今回、日本ユネスコ協会連盟から「カンボジアスタディーツアー」への募集があり、またとない機会に、まずはカンボジアについて理解を深めようと思いついて参りました。

○カンボジア1日目

現地に着いてからバスで食事会場まで移動しました。ぼくは到着早々、バスから見える車窓に圧倒されました。

まず目に入ったのは、道路の道幅いっぱいになるバイクです。一つのバイクに3～5人の人が乗っていました。人々が夏祭りのような熱気を発し、僕は思わず口をあぐりさせてしまいました。道幅いっぱいになるバイクはゴジラのバックミュージックのように僕の心に揺れを起こしました。これからどんな景色が僕を待っているんだろう。驚きとワクワクが胸を埋め尽くしていました。

夜なのにうるさいエンジン音も、これからの旅路を応援してくれるファンファーレのように聞こえました。

次に、ネオンの光が目飛び込んできました。あれ？ここは日本の夜の遊園地なのかな？そう錯覚するような明るさでした。道端に目を移すと、たくさんの方が夕食をとっていました。現地の人々はよく外で食べるそうです。いつも家の中でご飯を食べるのかなと想像していたので驚きました。食習慣の違いがなんだか面白くて、もっともっとカンボジアについて知りたいと思いました。

こんな風に文化の違いに圧倒されていると、あっという間に食事会場に着きました。そこは、洋風な装飾をされた建物でした。カンボジアはフランスの植民地になった歴史の影響で洋風の建物が多いそうです。なんだか想定していた建物と違い、いい意味で予想を裏切られました。

目の前にはたくさんのカンボジア料理が並びます。ゴクリ、料理を受け入れる準備は万端です。口に料理を運びます。ピリピリピリピリ。辛～い。舌が悲鳴をあげています。急いで水で口の中で燃えている火元を消火します。



ここは夜でも暑かったのですが、辛い味付けのおかげか食欲がでました。あ、でも春巻きは辛くなかったです！

○カンボジア 2日目

日本大使館と UNESCO、そしてトゥルスレンに行きました。そこで、カンボジアの現状と厳しい歴史を学びました。事前に学習してきた知識が実際に現地の人言葉や風景として目の前に現れ、まるで数学の問がするすると解けていくような気分になりました。自分の中のカンボジアがどんどんクリアになっていきました。

トゥルスレンという博物館に行って、ポルポト時代を学びました。一つの部屋にここで殺された方の写真が展示されていました。その部屋の真ん中に立ったとき、殺された方一人一人の目が何かを訴えているようで言葉に表せない感情が込み上げてきました。

僕は、この体験をどう受け止めるべきなのか迷ったのですが、このとき感じた「自由と平和を守っていきたい」この気持ちを忘れないでいよう。と思いました。

○カンボジア 3日目

三日目は、キリングフィールドにいてポルポト政権に殺された方々の墓参りをしました。ここには、亡くなった方々の遺骨を安置した塔がありました。この塔の前に立ったとき、祖母の葬式を思い出しました。祖母は、「学校頑張ってきてね」の一言のために、毎朝電話で応援をしてくれていました。学校に行くのが億劫な日でも、前向きな気持ちで学校に行くことができました。そんな祖母が昨年病気で亡くなりました。本当に悲しく、涙が止まりませんでした。これら骸骨一つ一つには魂があって、生きていたんだ。僕と同じようにその一人一人に周りの人達はこの人の死に涙したんだ、と感じました。実際に現地に立つと、事前に学習していたときには感じなかった恐ろしさや、命の尊さを感じました。こんな当たり前のことに気づいたとき、胸の中は言葉にできない感情で溢れ、心が泣き出しました。

いかなることがあっても、暴力で物事を解決することは絶対にダメだと思いました。

キリングフィールドを後にして、移動中にガイドの方の子供のころの遊びについて伺いました。ゴム飛びや射的のような遊びで遊んでいたことを知り、日本の昔ながらの遊びとよく似ているなと思いました。インターネットで調べただけではわからないことを知ることができました。

○カンボジア 4日目

チョンクニア村とリエンダイ村の寺子屋に行き、その運営状況を聴いたり、授業を参観しました。そのとき、持参した折り紙やぶんぶんごまを子どもたちに渡して、絵を描いてもらいました。言葉は通じないので、ジェスチャーで伝えました。

寺子屋に通っている女の子の家庭を訪問しました。女の子は「この近くには医者がない。だから私は寺子屋で勉強をして医者になるの。家族や、村の人たちを支えたいの」と誇らしく話してくれました。彼女は地域の課題を



見つけ、課題を解決するために、未来を見据え行動をしていました。

子供たちの勉強する態度は真剣そのもので、着実にユネスコの理念が達成されていることを知りました。

○カンボジア5日目

アンコールワットを訪れ、世界遺産について学びました。アンコールワットにたくさんの観光客が訪れることで町は賑わっていました。現地ガイドの方に「アンコールはあなたにとってどんな場所ですか？」と尋ねると「宝物、この宝物の大切さをより多くの人に伝えていきたい。」と言っていました。

アンコールワットがカンボジアの人々の心の拠り所、誇りであり、ここでの観光業が生活の糧となっていました。

続いて、ユネスコ無形文化遺産のスパエク・トムを見学しました。革で作られた人形を伝統的な音楽に合わせて動かす姿はと〜ってもかっこよかったです。今、振り返ると目を大きく見開いて、うおーと言いながら見ていた自分の姿がとても滑稽に思えます。人形を操る体験させてもらおうと、とても難しく、文化を継承していくことは難しいことだと思いました。

僕は、スパエク・トムの情緒あふれる音楽に感動し、自分もスパエク・トムに関わっていきたくと考え、早速楽器を購入しました！！現在も演奏者の方と連絡を取り合いながら練習を続けています。

○カンボジア6日目

ユネスコが行っている塗り絵プロジェクトに参加しました。今回の塗り絵プロジェクトではバイヨン寺院の中にある彫刻を模した絵に色を塗り、絵と同じ紋様の彫刻を探します。自分が色づけた絵と同じ紋様の彫刻を見つけ出したときの子どもたちの顔はキラキラと輝いていました。地元の人々によって地域の宝が脈々と受け継がれていることを知りました。

また、地元の市場で買い物をしました。カンボジアには値切り文化があるので、自分も挑戦しました。上手に値切れませんでした

最後にこのカンボジアツアーで学んだことをスタディツアーのメンバー全員と共有し、帰国後それぞれが国際貢献の一步を踏み出そう！と決意を新たにしました。

今回、高校生カンボジアスタディツアーでアンコールワットやスパエク・トムなど現地の方々が大切にしているものを見ることができました。

また、ユネスコが行っている世界寺子屋運動の現場を見ることで、生き生きと子どもたちが学ぶ姿を見ることができました。ぼくが行っている「ユネスコ部」の活動をこれからも一生懸命続けていきたいです。

○カンボジアと日本の違いについて

愛媛県はカンボジアの方々に技能実習生として来てもらいたいと考えていることを、あるウェブのニュース記事で知りました。近い将来、カンボジアの方々がきっと、愛媛県にたくさんいらっしやると想像します。その一方で、言葉も文化も違う土地で過ごすことは、苦勞することもあるのではないかと思います。

僕は将来、たくさんの外国人の方々と大きなパーティーを開けたらよいと思



います。世界の様々な文化が集まって、互いのことをよく知り、また大切なことを共有しながら、コミュニティが広がっていくことを望みます。それはもしかすると、ユネスコが理念としている世界平和のための礎になるのではないのかと思うのです。

今回の旅は、カンボジアと日本の違いを肌で感じたいと思い参加しました。カンボジアの実体験をもう少し書きたいと思います。

第一に、カンボジアと日本の暑さの違いが印象的でした。僕が訪れたときは雨期だったのですが、それでも平均気温は28度くらい、年間を通して5度くらいしか差がないと聞きました。気温は日本より暑いと思うのですが、湿度は日本よりからっとしていて、過ごしやすいなと思いました。バスの移動が多かったからかもしれませんが、日本のほうが暑いです。

第二に、食の文化です。カンボジアは日本と同じ稲作文化ですが、主食はおかゆと聞きました。そして、お米はインディカ米で、日本のようにお米を炊くには適さないので、おかゆで食べると聞いてなるほどと思いました。そして、日本のうどんのルーツがここカンボジアにあると聞いて驚きました。四国は香川県の讃岐うどんをはじめ、愛媛県でもうどん屋さんがたくさんあるので、カンボジアの人も納得の味ではないかと想像しました。

第三にトイレの文化の違いです。カンボジアではトイレトペーパーを一緒に流さないそうです。SDGsにあるように、よりよいトイレが普及することを願っています。日本のトイレは、電動のウォシュレットまであるのでカンボジアの人もきっと気に入ってくれるのではないかと思います。

第四に結婚です。カンボジアでは真面目で勤勉な相手と結婚するように昔話によって伝えられてきたそうです。自分も母に勤勉な女性と結婚しなさいと言われてきたので、自分との共通点を見つけることができ、うれしくなりました。日本には勤勉な人もたくさんいるのでカンボジアの人と気が合うのではないかと思います。

今回の旅で日本との違いを肌で感じることができました。たくさんの違いがあるからこそ、「世界中の人々が他の民族や国が大切にしているものを大切にすることができる世界」をつくるために、日ごろから世界の文化に触れる機会が大切だと気が付きました。夢を叶えるために一歩ずつ自分にできることを実践していきたいと思います。